

田毎かゞみ 廣告

明治三十五年十二月

泉鏡花作

全一章

むつとして歸れば門の青柳のと、端唄にうたふ月
の影、雲吹拂ふ力はなくも、臃の風情も、冴けきも、
凄きも、涼しきも或はあらむ、此の小かゞみを君が
袂に。胸の平ならざる時、口惜き時、悲しき時、樂
しき折にも取り出で、心々に見給へよ。